

松江市田和山町の今と昔



新たな町の名前

松江市の乃木地区にある田和山町は、新たに名付けられたまちです。山陰道松江道路の北の田を区画整理し、商業地となった地域で、元は乃木福富町と浜乃木町だったところです。名前の由来は、おそらく山陰道の南の山で見つかり、史跡として保存された田和山遺跡にちなんだものでしょう。

【写真1】田和山遺跡（手前）と田和山町（赤い屋根が今井書店グループセンター店、右上の丘が神後田遺跡）

田和山町を挟む二つの遺跡

大規模な書店やホームセンター、スーパーなどが立ち並び、松江の新たな中心地の大部分は、つい四半世紀前まで長らくの間田んぼでした。東側は低い丘があり、友田遺跡がありました。区画整理前に発掘調査が行われて、弥生時代の長い間（約2400～2000年前）、有力者の墓が作られてきた場所でした。この遺跡はすでになくなっていきます。

一方、南側には田和山遺跡がそびえ、南側には4年前に見つかった神後田（じごで）遺跡があります。ともに弥生時代の壕（ほり）がめぐらされたシンボリックな遺跡で、当時の内海（今の宍道湖）からとても目立つように築かれたものです。どちらも重要な遺跡で、現地で保存されていますから、田和山町は、日本を代表する弥生時代の遺跡に挟まれていることになります。



【写真2】田和山遺跡と宍道湖

新たな調査-電気探査-

昨年、神後田遺跡の調査報告書を作成するために、同志社大学文化財情報科学調査研究センターの協力をいただいて、田和山町の一部で電気探査を行いました。地中に電気を流して、電気抵抗を測定することで地下の様子を推定するためです。その結果、田和山遺跡と神後田遺跡の間、現



在の今井書店グループセンター店中央あたりには、水分量の少ない砂層が伸びていたらしいのです。じつはこの砂層らしき部分の東側には二つ縄手遺跡という弥生時代の遺跡があって、田和山遺跡や神後田遺跡と同じところに人々の生活があったことが分かっています。一方、その砂層の西側は水分量が多い粘質土が広がっていたようです。弥生時代には一部は水田になっていたかもしれませんが、川の氾濫が多い湿原だった可能性が高いようです。

【写真3】田和山町での電気探査（地面に電極を差し込んで、電流を流している）

弥生時代が生きる町

このように、いま賑わいを見せる田和山町は、山陰を代表する弥生時代の歴史の上にたっています。しかも、田和山遺跡と神後田遺跡は現在もそこに残っています。その頃の環境や景観を考えるデータもそろってきました。田和山町を歩きかう皆さんが、少しでもその歴史に思いをはせてもらえるといいと思っています。また、そうなるように整備を進めていく必要があります。豊かな歴史文化に恵まれた松江市は、いたるところに歴史のストーリーが眠っているのです。

（歴史まちづくり部文化財総合コーディネーター／丹羽野裕／令和3年3月4日記）

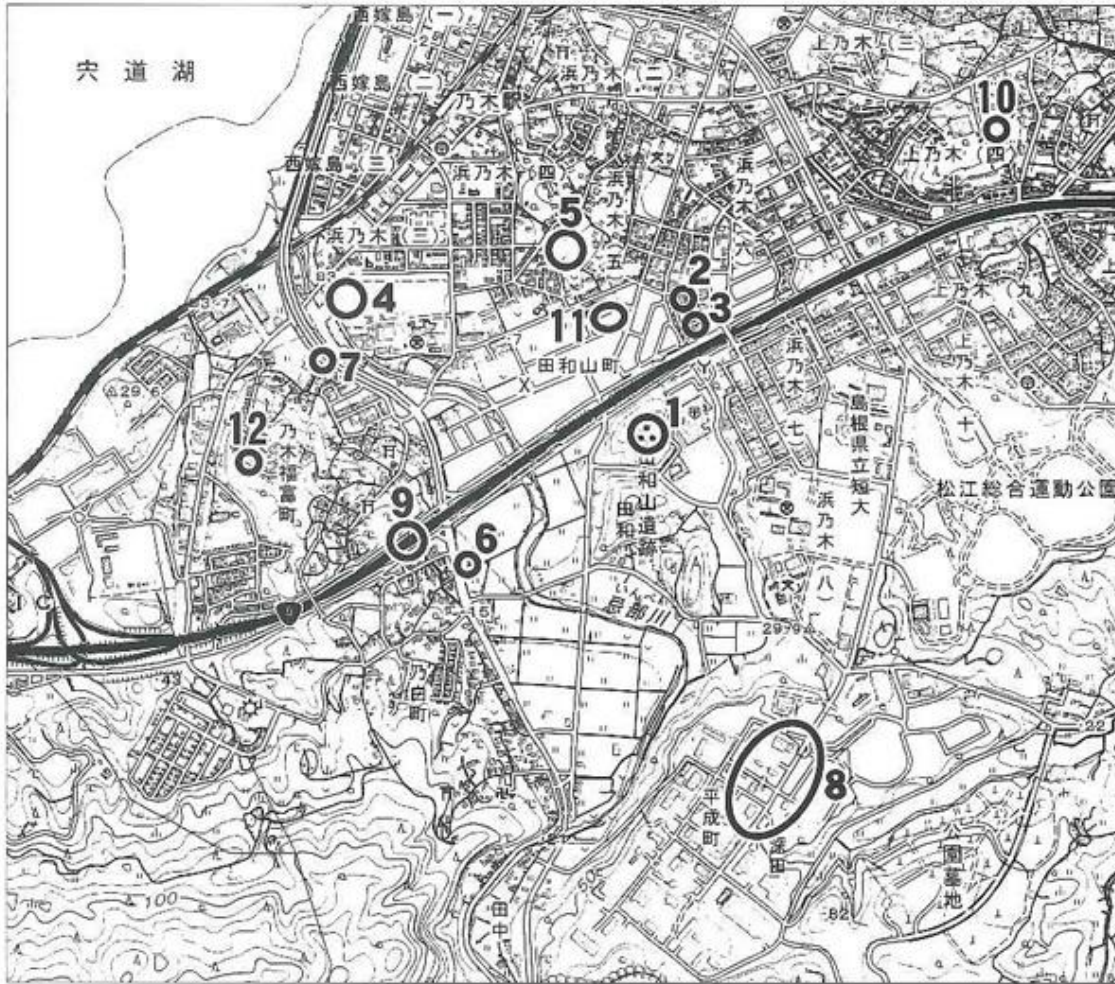


図1 遺跡の位置図 (1 : 25000)

- | | | | | | |
|----------|------------|------------|----------|---------|----------|
| 4. 欠田遺跡 | 5. 神後田遺跡 | 11. 二ツ縄手遺跡 | 1. 田和山遺跡 | 2. 友田遺跡 | 3. 南友田遺跡 |
| 9. 福富Ⅰ遺跡 | 10. 乃木西廻遺跡 | 12. 廻田遺跡 | 7. 門田遺跡 | 8. 袋尻遺跡 | |

【図1】田和山町周辺の弥生時代の遺跡（松江市ふるさと文庫27より）

田和山遺跡とその周辺の遺跡については、今年2月に刊行された、松江市ふるさと文庫27『田和山遺跡が語る出雲の弥生社会』（松本岩雄著）でわかりやすく解説されています。もちろん今井書店グループセンター店のほか市内主要書店でもお買い求めいただけます。